

原著 (Article)

小学校外国語科における「自らの学習の調整」の側面の評価に関する考察

——教科書における「メタ認知・動機づけ・学習方略」の扱い方の調査から——

**A preliminary study on foreign language learning of
Japanese elementary schools based on text book analysis**

森 和久*

MORI, Kazuhisa*

相川 保敏**

AIKAWA, Yasutosi**

1. 実践の背景と目的

2020年度より、小学校において外国語科が新たに実施されることに伴い、小学校においても中・高等学校の外国語科と同様に観点別の評価を行うこととなった。しかし、米崎ら(2016)の調査によれば、学校現場においては、新たな教科として外国語科を指導しなければならないことに加え、これまでの外国語活動では行わなくてもよかった観点別評価や評定を、新たに行わなければならないことへの不安が大きい。そして、英語科の評価が始まるということのみならず、その評価の在り方は、現行指導要領から大きく変わろうとしている。

2017年告示の学習指導要領(以下「新学習指導要領」)では「各教科等の目標及び内容」が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されている。そして、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(以下「通知」)により、「新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、これらの資質・能力に関わる『知識・技能』、『思考・判断・表現』、『主体的に学習に取り組む態度』の3観点到整理」することとされた。

そして、「通知」では、「学びに向かう力・人間性」には「①『主体的に学習に取り組む態度』として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価(個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する)を通じて見取る部分がある」とされている。このうち「主体的に学習に取り組む態度」については、「各教科等の観点の趣旨に照らし、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価すること」とされている。「通知」に先立ち2019年1月に出された「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(以下「報告」)に、より詳しい記述があり、「主体的に学習に取り組む態度」については、

* 椋山女学園大学教育学部/椋山女学園大学附属小学校

** 名古屋市立白鳥小学校

「① 知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と，② ①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面を評価することとされている。つまり，「学びに向かう・人間性」を，個人内評価で評価する部分と「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価をする部分に分け，さらに「主体的に学習に取り組む態度」を「粘り強さ」と「自らの学習の調整」の二側面に分けたわけである。

また「報告」には，『「主体的に学習に取り組む態度」の評価とそれに基づく学習や指導の改善を考える際には，生涯にわたり学習する基盤を培う視点をもつことが重要である。このことに関して，心理学や教育学等の学問的な発展に伴って，自己の感情や行動を統制する能力，自らの思考の過程等を客観的に捉える力（いわゆるメタ認知）など，学習に関する自己調整にかかわるスキルなどが重視されていることにも留意する必要がある」と記載されている。「自らの学習を調整する側面」が「学習に関する自己調整にかかわるスキル」を念頭において設定されており，背景には「自己調整学習」の考え方があって考えられる。「自己調整学習」は，ジーマーマン（1989）により「メタ認知的過程」，「自発的動機づけ」，「行動の過程」を必要とする積極的活動と整理されており，「予見」「遂行コントロール」「自己省察」の3段階で構成される循環的なプロセスとして考えられている。英語学習においては，西田・久我（2018）が，中学校において「予見」「遂行コントロール」「自己省察」の各段階において，「メタ認知」「動機づけ」「行動（学習方略）」を意図的に促す仕組みやツールを組み込んだ英語科学習指導プログラムを開発し，自律的な学習者の育成を図る取り組みを行っている。

一方，小学校外国語科の新設に伴い，新たに小学校英語科の教科書が7つの発行者により作成され，2019年にはそれらの中から採択が行われている。学校現場では，採択された教科書を主たる教材として指導を考え，評価を行うことになる。教科書は，新たに示された3観点による評価に対応するよう作成されているが，中でも「主体的に学習に取り組む態度」の「自らの学習を調整しようとする側面」という考え方は新たに示されたものであり，各社の取り扱い方にはそれぞれの特色が出ている。そこで，本研究は，小学校外国語科教科書において，「主体的に学習に取り組む態度」のうち，とりわけ「自らの学習を調整する側面」につながる内容についてどのような扱い方がされているかを調査し，今後のよりよい教科書の活用方法について考察するものである。

2. 研究の方法

2019年度に示された7社の外国語科の教科書のうち第5学年の全ての記述を分析し，西田，久我（2018）が整理している「自律的学習を促す要素」即ち，「メタ認知」「動機づけ」「行動（学習方略）」に関する記載がどのようにされているかを調べる。

各要素に該当する記載かどうかの判断基準は、西田、久我の実践において、自己調整学習の3要素を「予見」「遂行コントロール」「自己省察」の各段階に組み込むための「構成原理」として記述されている内容を参考にし、表1の「基準」欄のように定めた。

表1 教科書の記述調査の判断基準

要素	定義	基準
メタ認知	学習過程の様々な段階で計画を立て、自己モニターし、自己評価していること	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の学習の振り返り ・選択した「学習方略」の確からしさの確認 ・次なる課題や目標の設定
動機付け	自分自身を有能さ、自己効力、自立性を有するものとして認知していること	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の目標とその達成のための学びの意識化 ・目標となるモデルの提示（モデルスピーチ） ・相互の「勇気づけ」と相互評価
行動（学習方略）	学習を最適なものにする社会的・物理的環境を自ら選択し、構成し、創造していること	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方ガイダンス ・友だちや仲間の学習をモデリング ・学習計画の可視化 ・予習・復習 ・辞書活用 ・スピーチ練習、筆記練習 ・先生や友だちに尋ねる

3. 研究の結果

「動機づけ」、「行動（学習方略）」、「メタ認知」の順に、教科書に記載されていることがらを表にして示す。なお発行者は、略称で示し、該当する記述が何箇所も出てくる場合は、初出の記述及び「等」という言葉で記載している。頁についても同様である。

3.1 動機付け

「動機付け」に関する記述は表2にまとめた。西田、久我（2018）の実践では、「どのように話せるようになりたい」と目標になるようなALT等によるスピーチにより、動機付けを行う取組が提起されている。しかし、今回の教科書の記述には、「モデルスピーチを聞く」というような内容はなかった。ただし、各社とも音声・映像の教材の活用が組み込まれており、その中にはモデルとなるような音声教材もあるであろうと考えられる。

表2 「動機付け」に関する記述

該当する基準	発行社	記述	頁
将来の目標とその達成のための学びの意識化	東書	あなたが英語を使って将来したいことを書いてみよう。	3
	教出	あなたが英語でできるようになりたいことを書いてみよう。	5
目標となるモデルの提示(モデルスピーチ)	なし		
相互の「勇気づけ」と相互評価	東書	聞く人ははげます言葉を言おう。 「がんばってね。」とはげますときは Good luck! と言いましょう。	31

3.2 行動（学習方略）

「行動（学習方略）」に関する記述は表3にまとめた。教科書においては、特定の学習活動を促すことにその多くのページが割かれ、「しましょう。」「書きましょう。」「考えましょう。」などの表現によって、児童が行う学習活動を明示していることが多い。したがって児童が学習方略を考えることを促す表記や自分で学習を進めるための手助けとなるような箇所はそれほど多くはない。しかし、各社とも「教科書の使い方」を示すページを設け、単に題材名とページを示すのではなく1年間の学習を見通すことができるよう工夫された「もくじ」と合わせて、学習の仕方を意識して学んでいくことができるようになっている。

また、自ら必要な時に辞書を用いて調べるという基本的な学習方略の獲得につなげることができるよう、絵で単語を表し常に参照できるようにしたページが各社とも巻末に設けられている。西田、久我（2018）の実践にあった「友だちや仲間の学習をモデリング」し、自分の学習方略に取り組む活動は、どの教科書にも直接的には提起されていなかった。しかし、どの教科書もペアやグループで言語活動を行う学習活動は設定されており、その中で、「友だちや仲間の学習をモデリング」ということは行い得ると考えられる。

表3 「行動（学習方略）」に関する記述

該当する基準	発行社	記述	頁
学び方ガイダンス	東書	この教科書で英語を学ぶみなさんへ たくさんの発見をしながら、英語を学ぼう。 「教科書で使われている主な記号」等	4, 5
	開隆堂	「この教科書で使われているマーク」等	3
	学図	『JUNIOR TOTAL ENGLISH 1』で学習しましょう！	4, 5
	三省堂	この教科書の使い方	6, 7
	教出	教科書で行う主な学習活動	3
	光村	教科書の使い方	6, 7
	啓林館	教科書の構成・使い方	2, 3

友だちや仲間の学習をモデリング	なし		
学習計画の可視化	東書	もくじ	6, 7
	開隆堂	もくじ	2, 3
	学図	目次	2, 3
	三省堂	もくじ	4, 5
	教出	もくじ	2, 3
	光村	もくじ	4, 5
	啓林館	もくじ	0, 1
予習・復習	開隆堂	この教科書で学んだことリスト この教科書で学んだことを表にまとめてあります。復習したところに☑を入れましょう。	108～113
辞書活用	東書	Word Link Picture Dictionary を見てね 等 別冊「Picture Dictionary」	10, 11 他
	開隆堂	単語リスト 絵カード	114～119 他
	学図	Word List	144～151
	三省堂	Word & Phrases いろいろなことばを種類ごとに示しています。活動するとき、参考にしましょう。	112～128
	教出	My Word Bank 使いたい言葉を探してみよう。	112～117
	光村	絵辞典 場面に合わせてさまざまな語を使ってみましょう。	118～131
	啓林館	Word List	100～118
スピーチ練習、筆記練習	東書	学び方みいつけた！ 4線ノートに着目 4つの線の違いが分かるかな。 身のまわりのアルファベットをさがそう。他	36, 64
		Sounds and Letters アルファベットの大文字 アルファベットの子文字 他	86～96
	開隆堂	文字に慣れよう 大文字を書こう。 他	81～89 94～101
	学図	練習コーナー 4線を使って練習しましょう。	154, 155
	三省堂	英語の文字 大文字を書こう 他	106, 107
先生や友だちに尋ねる	東書	こんなときにどう言うの？ ※先生に聞いてみよう。	43, 51, 59

3.3 メタ認知

メタ認知に関する記述は表4にまとめた。2番目の「選択した『学習方略』の確からしさの確認」は、学習のまとまりの途中段階で、自分が選択した学習方略について振り返り、必要であれば修正するという意味合いである。これについては、教科書は、基本的には定められた学習を行うよう構成されているため、ほぼ記載がなかった。唯一、啓林館は、学習の振り返りの中で、自分の学習の不十分な点を意識させるような項目があった。メタ認知で基準とした「自身の学習の振り返り」「選択した

『学習方略』の「確からしさの確認」「次なる課題や目標の設定」は厳密に区分しがたく、「振り返り」の観点にも含まれる内容ではあるものの、学習方略に対するメタ認知と捉え、ここに分類した。2 番目、3 番目の観点が発行者によって違いが生じているのに対し、各社とも 1 番目の観点である振り返りは重視しており、各内容のまとまりごとに振り返りを行うような構成がされている。

表 4 メタ認知に関する記述

該当する基準	発行社	記述	頁
自身の学習の振り返り	東書	できたら□に✓を入れよう。 □ 1 名前を言ってあいさつをしよう。 □ 2 名前のつづりを伝え合おう。 等	15等 各 Unit 毎 に
		Check Your Steps Unit 1～3の Enjoy Communication で使った作品をはろう。	34, 35等 年 3 回
	開隆堂	CAN-DO マップ できるようになった分だけ○をぬってみよう。 Lesson 1 名前や好きなものをふくめて自己しょうかいをすることができる。	1, 2
		ふりかえりをしよう 1 アルファベットの太文字で自分の名前を書くことができた。 等	11等 各 Lesson 毎
	学図	Check Time Lesson 1をふり返ってあてはまる□に○をつけましょう。 好きな教科やスポーツ、持っている物をたずねる表現を聞き、言うことができた。 等	31等 各 Lesson 毎
	三省堂	まとめとふりかえり ・ Goal は達成できましたか。よかったところはどこですか。 ・ 思いを伝えるために、話すことの順番などで、どんな工夫をしましたか。 等	37, 38等 年 3 回ある Presentation につき 2 回、 計 6 回
		CAN-DO リスト 好きなことや、とくいなことについて話される英語の内容がわかった。 等	103
	教出	Lesson1をふりかえろう 自分の名前や、好きなものの伝え方を知って、言うことができた。 等	23等 各 Lesson 毎
	光村	ふりかえろう CAN-DO：名前や好きなものを言って、自己紹介をすることができた。 等	27等 各 Unit 毎
	啓林館	Looking Back Unit 1の学習を振り返りましょう。 1 自分のたんじょう日を言えるかな。 CAN-DO List ゆっくりはつきりと話されれば、授業で学んだ語句・表現を聞き取ることができる。	18等 各 Unit 毎

選択した「学習方略」の確かさの確認	啓林館	Looking Back Unit 1の学習を振り返りましょう。 3 Unit1の学習中に「言いたいけど言えなかった」ことや、「もっと知りたい」と思ったことを書いてみよう。	18等 各 Unit 毎
次なる課題や目標の設定	三省堂	まとめとふりかえり 次は、どんなくふうをして活動したいですか。 JUMP2につなげよう。	37等
		JUMP2 Goal どんな思いで先生に自分のことを伝えたいですか。Goalに書こう。	38等
	光村	気づきをいかそう 活動をふりかえり、気づいたことを話し合いましょう。また、これからの学習に生かしたいことを書きましょう。	11
		ふりかえり 深める：初対面の人と親しくなるために、自己紹介でどんな工夫ができますか。	27等 各 Unit 毎
	啓林館	Looking Back Unit 1の学習を振り返りましょう。 5 Unit1で学習した英語をどんな場面で使いたいか書いてみよう。	18等 各 Unit 毎

また、教科書の巻頭や巻末に Can-Do リストを載せている発行者も多く、そこで何ができているか振り返るよう意図されている。これは、文部科学省が平成25年に中・高の外国語教育における学習到達目標を「CAN-DO リスト」の形で設定することを提示し、小学校向けとして補助教材として作成した Hi, friends! Plus の中に CAN-DO リストを設定したことを受けてのことと考えられる。岡ら（2019）が指摘するように、「CAN-DO リスト—ふり回り」は「自律した学習者の育成」のために有効であると考えられる。

一方、田中ら（2017）が「教師が CAN-DO リストを意識しすぎたあまり、児童の問いや興味等に柔軟に対応した単元や授業を展開することができなかった。英語を使って何ができるようになるかという観点で指導することは重要であるものの、技能のみに目を向けると、単元が技能習得中心となり、教師主導で授業の方向性を決めてしまう可能性がある。」と指摘するように、学習者が自らの学習を見通し、振り返るためのツールではなく、教師のための技能面のチェックリストになってしまう恐れがある。

実際、教科書においても CAN-DO 形式をはじめとする振り返りの具体的な記述の仕方は、かなりばらつきがある。そこで、その違いを明らかにするために、各発行者の最初の学習のまとめ、即ち「自己紹介」が活動の中心となる学習における振り返りの表現をすべて抽出してみることにした。抽出の仕方は、「知識、技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点のうち、どの観点に対応していると考えられるかによりを区分し（それぞれ「知」「思」「主」と表示）、振

り返りの記述と、自己評価する際に何段階で評価するようにしているかを表5にまとめることとした（例えば、段階の「3」は達成度を3段階に評価するようにしていることを示し、段階の「1」は、できたものにチェックを入れる形式のもの、段階の「0」は、記述式のものであることを示す。）。

表5 観点別の振り返りの記述

区分	記述	段階	発行者
知	アルファベットの大きな文字で自分の名前を書くことができた。	4	開隆堂
	アルファベットを読み、書くことができた。	3	学図
	アルファベットの大きな文字を知って、聞いたり読んだりすることができた。	3	教出
	名前のつづりを伝え合おう。	1	東書
思	名前を言ってあいさつをしよう。	1	東書
	自分のたんじょう日を言えるかな。	1	啓林館
	友だちにたんじょう日をたずねられるかな。	1	啓林館
	自分のたんじょう日にほしいものを伝えられるかな。	1	啓林館
	好きなもの・ことを伝え合おう。	1	東書
	好きな教科やスポーツ、持っている物をたずねる表現を聞き、言うことができた。	3	学図
	自己しょうかいをし、好きな物や持っている物を伝え、たずね合うことができた。	3	学図
	名前や好きなものを言って、自己紹介をすることができた。	4	光村
	自分の名前や、好きなものの伝え方を知って、言うことができた。	3	教出
	自分のことをわかりやすくしょうかいするスピーチができた。	3	教出
	名前や好きなものをふくめて自己しょうかいをすることができる。	4	開隆堂
	名前や好きなものをふくめて自己しょうかいをすることができた。	4	開隆堂
	名刺交換をしよう。→ 何人かと交換しよう。	1	東書
	友だちにわかりやすく自己しょうかいをしようとした。	4	開隆堂
主	自分から進んで、自己しょうかいをし、友だちの自己しょうかいを聞こうとした。	3	学図
	聞いている人にわかりやすく話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりした。	3	教出
	Goalは達成できましたか。よかったところはどこですか。	0	三省堂
	HOP（15ページ）で立てた目標（My Goal）は達成できましたか。	0	三省堂
	思いを伝えるために、話すことの順番などで、どんな工夫をしましたか。	0	三省堂
	世界の小学生の自己紹介の映像を見て、どんなことに気がつきましたか。	0	光村
	次は、どんなくふうをして活動したいですか。JUMP2につなげよう。	0	三省堂

次は、どんな工夫をして活動したいですか。	0	三省堂
初対面の人と親しくなるために、自己紹介でどんな工夫ができますか。	0	光村
Unit1の学習中に「言いたいけど言えなかった」ことや、「もっと知りたい」と思ったことを書いてみよう。	0	啓林館
Unit1で学習した英語をどんな場面で使いたいか書いてみよう。	0	啓林館

このようにまとめてみると、「自己紹介」の学習における各発行者の振り返りは、新学習指導要領の「思考力、判断力、表現力等」の指導事項「ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと」及び「ウ (ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動」に関する内容が中心となっていることがわかる。また、「知識、技能」については、「イ (ア) 活字体の大文字、小文字」に関するものとなっている。記述の仕方に最もばらつきが大きいのが「主体的に学習に取り組む態度」についてであり、その内容が振り返りに記載がないものもあった。また、「友だちにわかりやすく自己しょうかいをしようとした。」のように、従来の「関心・意欲・態度」の評価の評価基準に多く見られた表現もあった。また「自らの学習の調整」につながる「次は、どんな工夫をして活動したいですか。」のような振り返りも見られた。

4. 考察

「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」と言われるように、あくまでも教科書は主たる教材であり、その活用の仕方は教師にゆだねられている。しかし、新たに始まる外国語科については、教員の指導力に不安を感じている教育委員会関係者が多い（ベネッセ2017調査）ことから、教科書に頼った授業になりがちになるであろうことが想定される。

一方、学習評価の在り方に関する方向性、とりわけ「主体的に学習に取り組む態度」の「粘り強さ」と「自らの学習の調整」の二側面について評価するという方針は今回新たに示されたことであり、教育現場に浸透、定着するに十分なだけの時間があつたわけではない。その結果、当然のことではあるが、「主体的に学習に取り組む態度」、とりわけ「自らの学習の調整」に関連する発行者の取り扱いには大きなばらつきが生じている。

授業者は、教科書を用いつつも新たに示された評価の在り方に基づいて評価をしなければならぬわけであるため、使用する教科書の特色を理解したうえで、必要に応じて教師がさらに工夫を加えて授業を進めていく必要がある。その際に、今回明らかになった各発行者の違いを参考にし、採択した教科書以外で取り入れることができるものは積極的に取り入れればよいと考える。例えば、「動機づけ」に関しては、「英語

を使って将来したいことを書く」活動や「英語でできるようになりたいことを書く」といった活動が参考になる。また、互いに認め合うことで自分の学習に対する肯定感を高め、学習に対する動機づけを得るような応答の仕方の習慣づけも有効になるであろう。「行動（学習方略）」に関しては、「絵辞書」の活用や巻末資料の活用、また「CAN-DO リスト」を復習チェックのツールとしても用いることなどが考えられる。

教科書において記載が十分とは言えない学習方略についてであるが、伊藤ら（2003）が調査のための項目内容として整理した自己調整学習方略をもとに、大下（2017）が、国語科学習のための「自己方略ガイド」を開発している。「前の学習でうまくいったことを思い出す」「自分のよく知っていることや興味のあることと結びつけて学習する」などの項目で、英語科学習に必要なと思われる学習方略をリスト化して示すことは有効なのではないかと考える。

「メタ認知」については、「振り返り」のページを活用しつつ、さらに「自分の学習の在り方」に関して振り返ることや「次なる課題」を考えるということも必要になるであろう。

佐藤（1998）の小学生を対象にした研究では、「メタ認知的方略は、相対的に、あまり有効でなく、コストがかかると認知されている」という結果が見出されている一方、藤田（2012）の大学生を対象とした研究では、メタ認知方略について「大変であると思う」意識が低いという結果が出ている。これはメタ認知能力の高まりの差であるとともに「低年齢の学習者においては、直接的に学習効果と結びつかないメタ認知方略は有効性が高く認知されない」（藤田 2108）からであると考えられている。したがって、なおさら「メタ認知的方略の使用を促進するための適切なトレーニング」（佐藤 1998）が必要となると考える。そのためにも、何をどんな基準で振り返ったらよいのか振り返りの仕方を具体的に指導するということが必要になってくると考える。

以上、教科書の記述を見ることで、「主体的に学習に取り組む態度」のとりわけ「自らの学習の調整」の側面の評価を行うために、今後指導者がどのような点を工夫する必要があるのかを考察してきた。いずれにしても指導者が指導することをおろそかにして単なる評価者になることは、最も望ましくないことであり、各発行者が工夫している部分を有効に活用しながら「自らの学習を調整」するような指導をしたうえで、どのような姿が見られたら評価できるのかを判断することが重要である。そのためにも、今後各指導内容に応じた具体的な評価基準、ルーブリックを作成・蓄積することが必要になってくると考える。

付 記

本研究は、執筆者が校長を務める私立学校（梶山女学園大学附属小学校）に対し、採択権者が行う調査研究に支障が生じないようにするため送付された各発行者の教科書見本を用いて行った調査研究をもとにまとめたものである。教科書見本を送付いた

だいた各発行者に感謝申し上げる。

■引用文献

- 伊藤崇達・神藤貴昭 (2003) 学習の持続性に関する因果モデルの検証—認知的側面と動機づけの側面の自己調整学習方略に着目して—, 日本教育工学会論文誌, 日本教育工学雑誌, 27(4): 377-385.
- 大下あすか (2017) 小学校国語科第5学年「読むこと」の授業における自己効力感を高めるための学習指導の工夫—「自己調整学習方略ガイド」の開発を通して—, 平成28年度広島市教育センター教員長期研修生研究報告, <http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/kennkyu/chouken/h28file/02oosita.pdf> (2019年8月20日閲覧可能).
- 岡久美子・中村光伸・榎本三紀子 (2019) 小学校外国語科における「読むこと」「書くこと」の指導を踏まえた単元構想と学習評価についての一考察, 和歌山県教育センター学びの丘 平成30年度研究紀要.
- 米崎里・多良静也・佃由紀子 (2016) 小学校外国語活動の教科化・低学年化に対する小学校教員の不安—その構造と変遷—, 小学校英語教育学会誌, 16(01): 132-146.
- 佐藤純 (1998) 学習方略の有効性の認知・コストの認知・好みが学習方略の使用に及ぼす影響, 教育心理学研究, 46: 367-376.
- 自己調整学習研究会 (2012) 自己調整学習 理論と実践の新たな展開へ 336 pp., 北大路書房, 京都.
- 田中真由美・中村伸哉 (2017) 小学校外国語活動における CAN-DO リストに基づく単元と評価, 中部地区英語教育学会紀要, 46: 201-208.
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 (2019) 児童生徒の学習評価の在り方について (報告) http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf (2019年8月20日閲覧可能).
- ディル H. シャンク・バリー J. ジーママン (著) 塚野州一 (編訳) (2007) 自己調整学習の実践 272 pp., 北大路書房, 京都.
- 西田寛子・久我直人 (2018) 自己調整学習の理論に基づいた「生徒の自律的な学び」を生み出す英語科学習指導プログラムの開発とその効果, 日本教育工学会論文誌, 42(2): 167-182.
- バリー J. ジーママン・ディル H. シャンク (著) 塚野州一 (編訳) (2006) 自己調整学習の理論 362 pp., 北大路書房, 京都.
- 藤田正・富田翔子 (2012) 自己調整学習に及ぼす学習動機および学習方略についての認知の影響, 奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要, 21: 81-87.
- ベネッセ総合教育研究所 (2017) 小学校英語の教科化に備える, VIEW21, 2017 Vol. 2, 教育委員会版 https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/VIEW21_kyo_2017_02_all.pdf (2019年8月20日閲覧可能).
- 文部科学省初等中等教育局 (2013) 各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き, http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306_4.pdf (2019年8月20日閲覧可能).
- 文部科学省 (2015) Hi, friends! Plus ワークシート http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/04/02/1356176_14.pdf (2019年8月20日閲覧可能).
- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領解説総則編 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387017_1_2.pdf (2019年8月20日閲覧可能).
- 文部科学省 (2019) 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について (通知) http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1415169.htm (2019年8月20日閲覧可能).
- アレン玉井光江 他62名 (2019見本) NEW HORIZON Elementary English Course 5, 東京書籍, 東京.

萬谷隆一 他44名（2019見本）Junior Sunshine 5, 開隆堂, 東京.
吉田研作 他21名（2019見本）JUNIOR TOTAL ENGLISH 1, 学校図書, 東京.
酒井英樹 他29名（2019見本）CROWN Jr. 5, 三省堂, 東京.
金森強, 本多敏幸 他23名（2019見本）ONE WORLD Smiles 5, 教育出版, 東京.
小泉仁 他28名（2019見本）Here We Go! 5, 光村図書, 東京.
影浦攻 他58名（2019見本）Blue Sky elementary 5, 啓林館, 大阪.